

母を憶う（頼山陽）

秋風吹吾冷 還吹木葉飛  
吹到故園樹 莫侵慈母衣

秋風 吾を 吹いて 冷やか なり

解説 冷たい秋風が故郷の母の衣服に吹き付け寒い思いをさせないで欲しいと、他郷にいるの作者が秋風に語りかけた詩。

還 木葉を 吹いて 飛ばす

語釈 ※木葉Ⅱ木の葉。 ※故園Ⅱふるさと。 ※樹Ⅱ樹木。

※慈母Ⅱいつくしみ深い母親。また、母親を敬愛するという語。

※衣Ⅱころも。

吹いて 故園の 樹に 到るも

侵す なかれ 慈母の 衣を

通釈 冷たい秋風が私に吹きつけて来て、非常に寒い。また、活きよい良く木の葉をも吹き飛ばしていく。この秋風は故郷の樹木にも吹きつけているであろうか。風よ、私の母親の衣服に吹きつけて、寒い思いをさせないで欲しい。